

義肢装具学科 カリキュラム

〈1年次〉

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省 基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	物 理 学	2	30					2	30		14
		生 体 力 学	1	15					1	15		
		数 理 統 計 学	2	30					2	30		
		英 語	1	15					1	15		
		医 学 専 門 用 語			1	15			1	15		
		心 理 学	1	15					1	15		
		人 間 発 達 学	1	15					1	15		
		保 健 体 育	2	60					2	60	講義・実技	
		美 学			1	30			1	30		
		コミュニケーション論	1	15					1	15		
	社 会 保 障 論					1	15	1	15			
基礎分野	小 計	11	195	2	45	1	15	14	255		14	
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	医 学 概 論	1	15					1	15		13
		解 剖 学 I	1	15					1	15		
		解 剖 学 II	1	15					1	15		
		生 理 学	2	30					2	30		
		運 動 学 I	1	15					1	15		
		運 動 学 II	1	15					1	15		
		運 動 学 III	1	15					1	15		
		運 動 学 IV	1	15					1	15		
		運 動 学 演 習			1	30			1	30		
		機 能 解 剖 学			2	30			2	30		
	機 能 解 剖 学 演 習			1	30			1	30			
	疾病と障害の 成り立ち 及び 回復過程の促進	一 般 臨 床 医 学			1	15			1	15		9
		臨 床 神 経 学			2	30			2	30		
整 形 外 科 学				2	30			2	30			
臨 床 心 理 学		1	15					1	15			
病 理 学				2	30			2	30			
保健医療福祉と リハビリテーション の理念	皮 膚 科 学					1	15	1	15			
	社 会 福 祉 学	1	15					1	15		4	
	リハビリテーション医学			2	30			2	30			
リハビリテーション特論					1	15	1	15				
義肢装具領域 における工学	図 学・ 製 図 学	1	30					1	30		10	
	機 構 学	2	30					2	30			
	情 報 処 理 演 習	1	30					1	30			
	義肢装具材料学	2	30					2	30			
	義肢装具材料力学	2	30					2	30			
	リハビリテーション工学			2	30			2	30			
専門基礎分野	小 計	19	315	15	255	2	30	36	600		36	

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
専門分野	基礎義肢装具学	義肢装具学概論	1	30					1	30		17
		義肢装具基本工作論Ⅰ	3	120					3	120		
		義肢装具基本工作論Ⅱ	3	120					3	120		
		体幹装具学Ⅰ	3	120					3	120		
		下肢装具学Ⅰ			3	120			3	120		
		義足学Ⅰ			3	120			3	120		
		特殊装具学			1	30			1	30		
	義肢学	義手学			1	45			1	45		8
		義足学Ⅱ			3	120			3	120		
		義足学Ⅲ					4	180	4	180		
	装具学	装具学演習Ⅰ			1	30			1	30		12
		装具学演習Ⅱ					1	30	1	30		
		上肢装具学					2	75	2	75		
		体幹装具学Ⅱ					2	75	2	75		
		下肢装具学Ⅱ			3	120			3	120		
		下肢装具学Ⅲ					2	75	2	75		
		足病学					1	15	1	15		
	福祉用具学	福祉用具学Ⅰ					1	15	1	15		3
		福祉用具学Ⅱ					2	30	2	30		
	臨床実習	臨床実習Ⅰ			4	180			4	180		10
		臨床実習Ⅱ					6	270	6	270		
専門分野	小計		10	390	19	765	21	765	50	1920		50
	総計		40	900	36	1065	24	810	100	2775		100

義肢装具学科新カリキュラムツリー

DP① 対象者の心理的・身体的・社会的側面を理解でき、義肢装具を通して支援する知識と基礎的技術・技能を身に付けている。

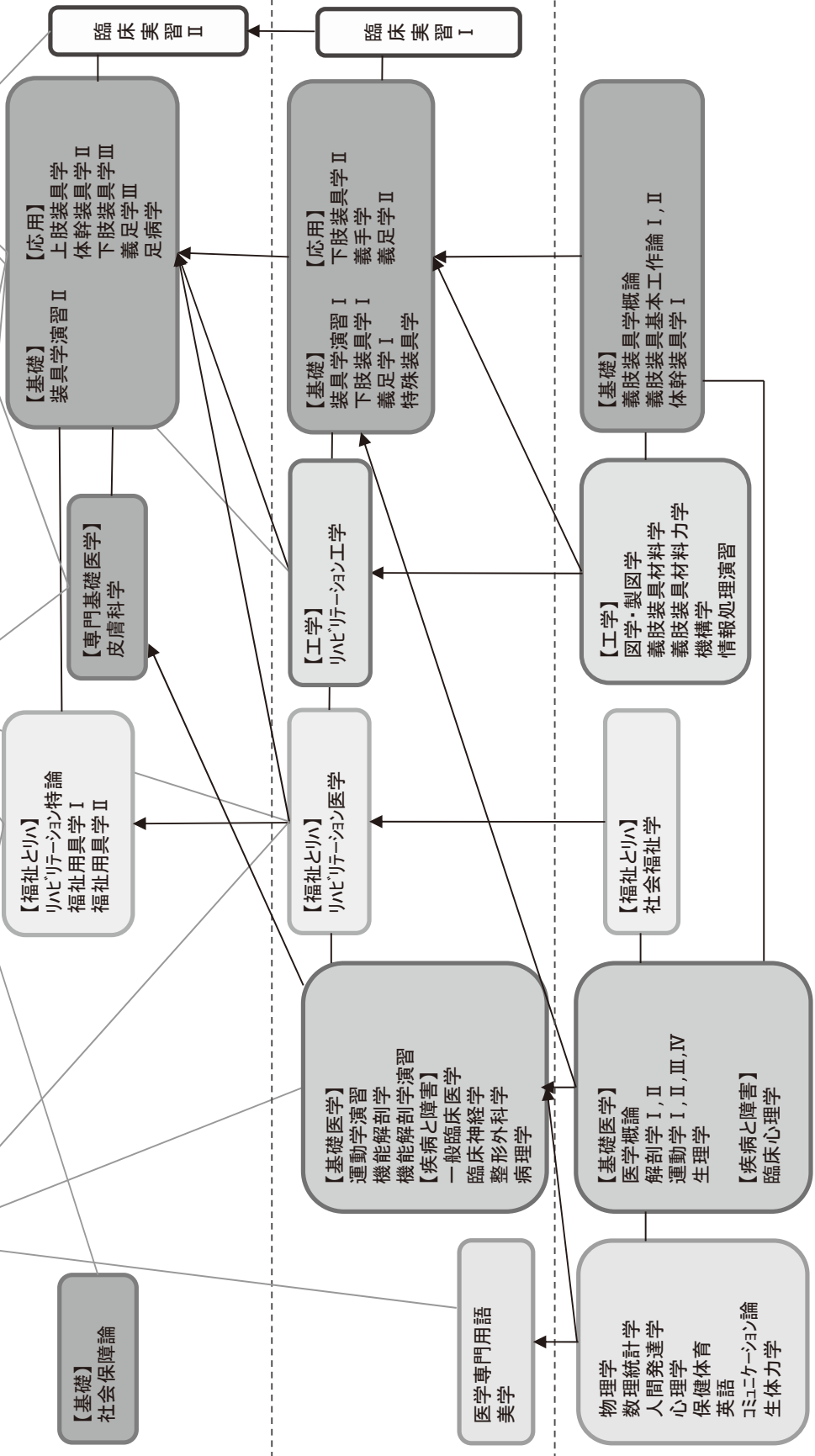
DP② 対象者へ適切な義肢装具を提供するため、保健・医療・福祉の領域で他の専門職とコミュニケーションを図ることが出来る。

DP③ 専門性を高めるために必要となる義肢装具の研究・開発の基本的プロセスを構築できる。

3年次

2年次

1年次



基礎分野

専門基礎分野

専門分野

1 年 次

令和6年度 前学期

時間割

義肢装具学科 1年

		月	火	水	木	金
1	9:00~ 10:30	義肢装具 基本工作論 I 石内, 山形, 白ヶ澤	図学・製図学 藤田	解剖学 I 森下	社会福祉学 城戸	人間発達学 小材 運動学 II 石内
2	10:40~ 12:10		心理学 森川 保健体育 大潮	生理学 谷口	社会福祉学 城戸 コミュニケーション論 田中	情報処理演習 緒方
3	13:10~ 14:40	義肢装具 基本工作論 I 石内, 山形, 白ヶ澤	保健体育 大潮 運動学 I 白ヶ澤	義肢装具 基本工作論 I 石内, 山形, 白ヶ澤	義肢装具学概論 本田	義肢装具材料力学 藤田
4	14:50~ 16:20		生体力学 石内 運動学 II 石内			解剖学 II 白ヶ澤 運動学 I 白ヶ澤

令和6年度 後学期

時間割

義肢装具学科 1年

		月	火	水	木	金
1	9:00~ 10:30	体幹装具学 I 山形, 白ヶ澤	機構学 藤田		義肢装具 基本工作論 II 石内, 山形	運動学 III 本田 運動学 IV 笹川
2	10:40~ 12:10		臨床心理学 森川 保健体育 大潮		義肢装具 基本工作論 II 石内, 山形 英語 最相	数理統計学 藤田
3	13:10~ 14:40	体幹装具学 I 山形, 白ヶ澤	保健体育 大潮	義肢装具 基本工作論 II 石内, 山形	義肢装具 基本工作論 II 石内, 山形	義肢装具材料学 峠
4	14:50~ 16:20		物理学 伊藤			

※「時間割」は変更されることがあります。

目次：義肢装具学科 1 年次

物理学	309
生体力学	310
数理統計学	310
英語	311
心理学	311
人間発達学	312
保健体育	313
コミュニケーション論	314
医学概論	314
解剖学Ⅰ	315
解剖学Ⅱ	315
生理学	316
運動学Ⅰ	317
運動学Ⅱ	317
運動学Ⅲ	318
運動学Ⅳ	318
臨床心理学	319
社会福祉学	319
図学・製図学	320
機構学	320
情報処理演習	321
義肢装具材料学	322
義肢装具材料力学	323
義肢装具学概論	324
義肢装具基本工作論Ⅰ	325
義肢装具基本工作論Ⅱ	326
体幹装具学Ⅰ	327

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活	科目名	物理学
代 表 講 師	伊 藤 喜久男 (熊本大学名誉教授)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
授 業 概 要	日常生活や医療の場で使われる機械・器具には物理学を応用したものがたくさんある。 また、複雑な自然現象も基本的な物理現象が積み重なったものとして説明できる。 科学・技術や自然現象のもとをなす物理学の基本的原理を理解できるように授業する。				
到 達 目 標	体の動きに不可欠な力のモーメントの理解を深める。さらに、力学、流体力学や電磁気学の学習を通して、医療器械の動作原理を理解する。				
成績評価の方法と基準	毎週実施する小テストの結果を30%、定期試験の結果を70%として、総合して評価する。				
テキスト・教材等	プリントしたテキストを配布する。				
回 数	授 業 内 容				
第1回	ギリシャ文字、接頭語 (キロ、ミリなど)、角度、三角関数、 基本単位 (長さ、質量、時間)、組立単位の例 (速さ、密度)				
第2回	スカラー (大きさだけをもつ)、ベクトル (大きさと向きをもつ)、 ベクトルの和と差、ベクトルの掛け算、力の釣り合い				
第3回	力のモーメント (トルク) の釣り合い、テコの原理				
第4回	定滑車と動滑車、重心、運動を記述する物理量、ニュートンの運動の3つの法則				
第5回	万有引力の法則、重力加速度、フーコーの振り子、等速直線運動				
第6回	等加速度運動、自由落下運動、放物運動				
第7回	運動量の変化=力積、反発係数、2つの物体の衝突、バットでボールを打つ、 仕事 (=力×距離)、力学的エネルギー保存の法則、熱力学第二法則				
第8回	摩擦力、自動車の制動距離、等速円運動、遠心力と見かけの力				
第9回	3つの基本的な変形 (伸び・縮み、ずれ、体積変化) たわみ (伸び・縮み)、曲げ (ずれ)、地震のP波 (伸び・縮み) とS波 (ずれ)				
第10回	圧力 (=力/面積)、液体と気体の密度、気圧の単位				
第11回	点滴装置、ピストン (パスカルの原理)				
第12回	浮力 (アルキメデスの原理)、ベルヌーイの定理、連続の方程式				
第13回	層流と乱流、血圧計、周期 = 1 / 振動数、単振り子				
第14回	まとめ、試験前の注意				
第15回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活	科目名	生体力学
代表講師	石 内 寛 丈 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	義肢装具士として臨床を経験してきた教員が、これまでの経験を活かし、義肢装具に関わる生体力学について講義する。				
授業概要	基本的な数学・物理の知識を応用して、生体の運動におけるさまざまな力学的因子の算出方法について講義する。				
到達目標	ベクトルの合成、分解ができる。 速度・加速度の力への変換、モーメントについて説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (60%)、講義中に実施する小テスト (40%)				
テキスト・教材等	配布資料				
回数	授 業 内 容				
第1回	生体力学の意味と基礎学力の確認、ベクトル、三角関数				
第2回	力の分解と合成、平衡問題				
第3回	滑車・摩擦				
第4回	モーメント				
第5回	身体各部の計測と重心位置				
第6回	演習問題①				
第7回	演習問題②				
第8回	生体力学の実際				
第9回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活	科目名	数理統計学
代表講師	藤 田 昌 幸				
授業方法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
授業概要	データの処理に必要な統計学 (記述統計学、推測統計学) の基本知識を学ぶと同時に、表計算ソフト (EXCEL) を用いた実際のデータ処理の演習も行う。				
到達目標	卒業研究時、または将来においてデータを EXCEL で多角的に分析したりグラフを作成するのに必要な能力を備えること。				
成績評価の方法と基準	試験 (70%)、EXCEL を用いた演習問題 (30%)				
テキスト・教材等	『統計学図鑑』 補助資料や演習問題は必要に応じて配布				
回数	授 業 内 容				
第1回	数理統計学とは、統計学の必要性				
第2回	平均と分散、標準偏差、変動係数				
第3回	平均と分散の演習 (手計算)				
第4回	EXCEL の基本と関数				
第5回	EXCEL を用いたデータ処理とそのまとめ方				
第6回	散布図、相関係数				
第7回	グラフを用いたまとめ方 (円グラフ、ヒストグラム)				
第8回	正規分布、標準正規分布、その他の分布				
第9回	推測統計学とは、平均の分布				
第10回	標準誤差、信頼区間				
第11回	帰無仮説と対立仮説、仮説検定 (主に t 検定)				
第12回	EXCEL を用いた推測統計学 (t 検定)				
第13回	最終課題 (実際に計測したデータの分析)				
第14回	最終課題提出、全体のまとめ				
第15回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活	科目名	英語
代表講師	最 相 博 子 (所属：熊本同時通訳者協会)				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：9回（18時間）
授 業 概 要	やさしい英語で書かれた実話を聞きとることと、読むこと（音読）をとおし、かんたんな会話力を養う。				
到 達 目 標	英語を身近に感じ、音読と Youtube 動画を視聴することで、英語に親しむ力を身につける。				
成績評価の方法と基準	筆記試験、課題の評価、授業態度				
テキスト・教材等	配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第1回	オリエンテーション、Reading speed check（読解力のチェック）、音読、シャドーイングの重要性 etc.				
第2回	An Amazing Pig				
第3回	Daily Marathons				
第4回	Saved by Dolphins				
第5回	The Olympics at Age of 41 又は、Using the Wind				
第6回	127 Hours with a Rock				
第7回	Changing School Lunch				
第8回	One cup at a Time				
第9回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活	科目名	心理学
代表講師	森 川 泰 寛 (所属：ヒューマンケア熊本)				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：9回（18時間）
授 業 概 要	心理学の視点から人間理解の理論と方法を学ぶ。				
到 達 目 標	心理学の視点から人間理解の基本を説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験（100%）				
テキスト・教材等	『生き方支援の心理学』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	「心」とは？：心理学オリエンテーション				
第2回	「身体」とは？：心と身体の関係				
第3回	「脳」とは？：脳の働きと心との関係				
第4回	「知る」とは？：感覚・知覚の心理学				
第5回	「解る」とは？：認知・思考の心理学				
第6回	「学ぶ」とは？：学習・記憶の心理学				
第7回	「感じる」とは？：感情・欲求の心理学				
第8回	「心の発達」とは？：心の発達と個性化				
第9回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活	科目名	人間発達学
代 表 講 師	小 材 美沙紀 (臨床心理士)				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
授 業 概 要	誕生から死まで人間がどのような発達過程をたどるのかを学習する。 生物心理社会的視点から人間の発達過程をながめ、それぞれの発達段階で生じやすい課題と、支援について考える。				
到 達 目 標	発達の知識を臨床や支援に活用することを念頭に、「正常な」発達とは何か、そこからの逸脱によって生じる課題、発達上の課題への支援について理解する。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (50%)、レポート (25%)、授業参加態度 (25%) から総合的に評価する。				
テキスト・教材等	『リハビリテーションのための人間発達学』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	イントロダクション 人間発達学がどのような学問か理解する。 胎児期の身体発達と感覚器官の働きを知る。正常な発達を阻害する要因について学ぶ。				
第2回	新生児期の身体発達を学ぶ。 養育者に生じる生活上の変化と、それへの適応の重要性を理解する。				
第3回	乳児期の身体発達、運動の発達について学ぶ。 発達を支える遊びの特徴や、養育者の関わりについて理解する。				
第4回	幼児期の身体発達、運動発達、社会性の発達を学習する。 幼児期の遊びの特徴と発達の意義、養育者からのしつけの発達への影響を理解する。				
第5回	児童期の身体発達、運動発達、社会性の発達について学習する。 神経発達障害の概要を学び、それによる生活上の困り感について考える。				
第6回	青年期の身体発達、社会性の発達、情緒の変化について学習する。 発達の变化をふまえた、支援のあり方について考える。				
第7回	成人期の家庭生活、職業生活の形成と変化、適応について学ぶ。 成人期の課題と望ましい支援を考える。				
第8回	老年期の身体発達、感覚器官、運動機能、認知機能の変化を学習する。 老年期の特徴をふまえた関わり方について考える。				
第9回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活	科目名	保健体育
代表講師	大 潮 八 郎				
授 業 方 法	講義・実技	単位数	2	学期・回数	前・後期：30回（60時間）
授 業 概 要	運動が生理機能に及ぼす影響を医科学的に学習する。				
到 達 目 標	生涯スポーツを意識し、自己体力の保持増進ができる運動処方作成ができるようになる。				
成績評価の方法と基準	試験（70％） 平常点：目標の達成度（20％） 参加意欲（10％）				
テキスト・教材等	必要に応じて資料配布				
回 数	授 業 内 容				
第1回	教科ガイダンス 運動と生理機能の関係 体力 行動体力 防衛体力 精神力				
第2回	運動と表現機能・コントロール機能				
第3回	トレーニングの原理原則・種類・方法				
第4回	体力測定 パワー系種目 調整力系種目				
第5回	実技：バドミントン① 基礎技術練習 ストローク				
第6回	〃	②	ダブルスとシングルスゲームのルール解説		
第7回	〃	③	ダブルスゲーム ルール解説		
第8回	〃	④	ダブルスゲームリーグ戦開始①		
第9回	〃	⑤	〃	②	
第10回	〃	⑥	〃	③	
第11回	〃	⑦	〃	④	
第12回	〃	⑧	〃	⑤	
第13回	〃	⑨	〃	⑥	
第14回	〃	⑩	シングルスゲームリーグ戦開始① ダブルスゲームリーグ戦開始⑦		
第15回	〃	⑪	〃	②	
第16回	実技：バドミントン⑫ シングルスゲームリーグ戦③				
第17回	〃	⑬	〃	④	
第18回	〃	⑭	〃	⑤	
第19回	〃	⑮	〃	⑥	
第20回	〃	⑯	チーム（団体）リーグ戦 ①		
第21回	〃	⑰	〃	②	
第22回	〃	⑱	〃	③	
第23回	〃	⑲	〃	④	
第24回	ミニソフトバレーボール① チーム（団体）リーグ戦①				
第25回	〃	②	〃	②	
第26回	〃	③	〃	③	
第27回	〃	④	〃	④	
第28回	運動の持続機能：心肺機能				
第29回	エネルギー供給過程：エネルギー源				
第30回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活	科目名	コミュニケーション論
代表講師	田 中 信 明 (所属：中央仁クリニック)				
授業方法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
授業概要	日常の「あたりまえ事」を的確に行うことが、他とのコミュニケーションの第一歩であることを知る。コミュニケーションとは人間関係構築力であることを知る。心は行動に現れることを学び、心構えの大切さと意義を知る。				
到達目標	挨拶を始めとする身の回りの「あたりまえ事」を行動に移せるようになる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 80%、5分スピーチ 20% 授業中の活発な発言を望みます。				
テキスト・教材等	スライド・配布資料				
回数	項 目	内容もしくはキーワード			
第1回	(思い込みの関係性)	医療職は患者さんを看(診)ているのではなく、実は観られている？			
第2回	(当たり前とは)	当たり前のことを普通にできる力、それは人間力のこと。 当たり前度チェックシートに自分の日常を記入し、自分の癖や行動を知る。			
第3回	(コミュニケーション：型)	行儀作法・日常動作には型があり、型とは接遇マナーのことであることを知る。 さまざまな型について：挨拶、礼儀作法の演習。上座下座の概念と演習。			
第4回	(コミュニケーション：声)	声＝サウンド・コミュニケーション：話す力 発声・滑舌 母音子音 「あいうえお」の発声演習。			
第5回	(コミュニケーション：話)	サウンド・コミュニケーション：個人5分間スピーチ スピーチでの4原則			
第6回	(コミュニケーション：感)	感＝意識無意識を問わず自動発信されるその人と型(形)の情報 表情、身なり、聴く力、見る力。			
第7回	(コミュニケーション：読)	読＝素読の効用：音読の凄さ アルファ波、脳活性、 不患人之不己知。患不知人也。			
第8回	(コミュニケーション：心構)	「行動力基本動作10箇条」を通して知る、自己実現の呪文と対人関係を進展させる心構え。			
第9回	試 験	筆記試験 (80%) 5分間スピーチ (20%)			

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	医学概論
代表講師	浅 井 淳 (元 熊本県赤十字血液センター) 大 串 幹 (所属：兵庫県立リハビリテーション中央病院) 本 田 智 裕 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
授業概要	(大串・本田) チーム医療における義肢装具士の役割を講義する。 (浅井) 将来、義肢装具士として国際医療救援に貢献出来るか考えてみる。赤十字活動から国際医療救援の実情を知る。				
到達目標	(大串・本田) 医療人として何に貢献出来るか考え、チーム医療における医学役割を理解する。 (浅井) 国際医療救援に関心を持つ、そしてそれに従事する必要な知識を得る。				
成績評価の方法と基準	レポート (100%)				
テキスト・教材等	配布資料、スライド				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	チーム医療の一員として				本田智裕
第2回	赤十字活動と国際人道法				浅井 淳
第3回	医療における義肢装具士の役割				大串 幹
第4回	"				"
第5回	"				"
第6回	"				"
第7回	チーム医療：理学療法士と作業療法士の業務と義肢装具士の関わり				理学療法学科講師 作業療法学科講師
第8回	チーム医療：臨床工学技士と救急救命士の業務と義肢装具士の関わり				臨床工学学科講師 救急救命学科講師

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	解剖学 I
代表講師	森 下 伊津夫 (元 熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
授業概要	解剖学を学ぶことによって、医学の基礎を知り得ることが出来る。				
到達目標	体の構造と機能を知ることにより実践的分野において活用できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (70%)、レポート (30%)				
テキスト・教材等	『新訂 目で見るとからだのメカニズム』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	脳神経系の構造と働き 中枢神経・神経伝達				
第2回	体性神経と自律神経・末梢神経				
第3回	呼吸器系構造と働き				
第4回	呼吸器の働き・循環器系の構造と働き				
第5回	循環器の働き・血液分布 リンパ系の働き				
第6回	消化器の構造と働き				
第7回	泌尿・生殖器系				
第8回	感覚器系を構成する器官				
第9回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	解剖学 II
代表講師	白ヶ澤 優 希 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
授業概要	人体の運動を学ぶための基礎として、運動器を構成する骨、関節、靭帯、筋等の筋骨格系、及び神経の基礎的な解剖学的知識を講義する。				
到達目標	骨・関節・筋の基本構造を説明できる。 神経系の基本構造を説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (80%)、小テスト (20%)				
テキスト・教材等	『新訂 目で見るとからだのメカニズム』、『解剖学アトラス』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第1回	生体の成り立ち 細胞 組織 器官 身体的位置と方向				
第2回	骨の発生と成長 構造 身体の骨の名称				
第3回	骨の形状と分類 骨の代謝機能				
第4回	関節の定義 関節の種類				
第5回	筋の構造と分類				
第6回	筋の作用 動作筋 拮抗筋 2関節筋など				
第7回	脳、脊髄、神経についての総論 中枢神経と末梢神経				
第8回	運動野と体性感覚野 運動神経と感覚神経				
第9回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	生理学
代表講師	谷 口 絃 八 (熊本大学名誉教授)				
授業方法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授業概要	生命現象の基本的事項について概観し、内部環境や外部環境の変化に対応して生体の恒常性が維持されるメカニズムを理解し、人体の運動と感覚の発現機構について学ぶ。				
到達目標	特に、人体の動物性機能（神経、筋、感覚）についての知識を深め、人体の運動発現機構と義肢装具との関連が理解できるようになる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験の成績で評価する。				
テキスト・教材等	『シンプル生理学』（南江堂）を使用する。 パワーポイントの資料を配布し視聴覚教材（DVD）も使用する。				
回 数	授 業 内 容				
第1回	生理学の基礎Ⅰ 生理学入門 生体機能調節の基本概念 ・生理学とは何か ・生理学分野の分類 ・生体の構成要素 ・体液（細胞外液、細胞内液） ・生体機能調節の基本概念 ・生体の恒常性（ホメオスタシス） ・生命活動とATP				
第2回	生理学の基礎Ⅱ 生命の誕生 細胞の機能的構造 ・原核細胞と真核細胞 ・細胞の構造 ・細胞膜 ・リボソーム ・ミトコンドリア ・核（DNA、RNA） ・遺伝とタンパク質の合成（転写と翻訳）				
第3回	生理学の基礎Ⅲ 細胞の機能分化 ・幹細胞 ・胚性幹細胞（ES） ・クローン ・体性幹細胞 ・人工多能性幹細胞（iPS）				
第4回	生理学の基礎Ⅳ 細胞の構造と機能 ・静止電位と活動電位の発生 細胞小器官の機能・膜の透過性 ・膜の物質輸送・受動輸送と能動輸送・イオンチャンネル・ナトリウムポンプ・ドナンの平衡・興奮と活動電位・ネルンストの式				
第5回	神経の基本的機能Ⅰ 静止電位と細胞の興奮 ・静止電位の発生 ・閾値と興奮性 ・全か無の法則（悉無律） ・局所流 ・閾値 ・不応期（絶対、相対） ・インパルス（神経線維の活動電位） ・興奮伝導の3原則				
第6回	神経の基本的機能Ⅱ 神経の構造と機能 伝導速度神経の基本的機能Ⅲ 興奮の伝達機構 ・有髄線維 ・無髄線維・ワーラー変性 ・跳躍伝導 ・伝達物質 ・シナプス伝達 ・興奮性及び抑制性電位（EPSP, IPSP）				
第7回	筋の構造と機能Ⅰ 筋線維組成 収縮代謝特性 ・筋の分類 ・遅筋線維 ・速筋線維 ・SO線維 ・FOG線維 ・FG線維				
第8回	筋の構造と機能Ⅱ 筋収縮機構 筋収縮の基本的機能 ・ミオシン・アクチン・トロポニン・興奮収縮連関（筋小胞体とCa ⁺ ） ・単収縮と強縮・疲労曲線・張力-強さ曲線・筋収縮機構の分類（等張性、等尺性収縮、等速性）				
第9回	筋の構造と機能Ⅲ 筋収縮のエネルギー 筋力トレーニングの基礎理論 ・解糖と酸化 ・クレアチンリン酸 ・ATP・嫌氣的解糖 ・好氣的解糖 ・TCAサイクル・電子伝達系（呼吸鎖） ・トレーニングの基本原則				
第10回	神経系の機能Ⅰ 神経系の分類 末梢神経系の機能 ・体性神経（運動神経、感覚神経） ・大脳皮質の機能局在 ・脊髄の構造と機能・錐体路と錐体外路・運動の制御（ α 線維、 γ 線維）・筋紡錘と腱紡錘・ストレッチングの原理				
第11回	神経系の機能Ⅱ 自律神経系の機能 ・交感神経と副交感神経・拮抗支配と単独支配・自律神経中枢 ・内臓機能の反射調節・伝達物質（ノルアドレナリン、アセチルコリン）・アドレナリン（ α ・ β ）受容体・アセチルコリン受容体				
第12回	神経系の機能Ⅲ 中枢神経の機能 ・脳神経と脊髄神経 ・高次機能 ・学習と記憶 ・睡眠 ・脳波 ・意識障害 ・植物状態と脳死				
第13回	神経系の機能Ⅳ 反射機構と姿勢反射 ・内臓反射と体性反射 ・筋紡錘の役割 ・伸張反射 ・脊髄反射 ・姿勢反射 ・平衡反射 ・緊張性頸反射 ・前庭迷路反射 ・立ち直り反射 ・バビンスキー反射				
第14回	感覚の生理 感覚器の分類と機能 ・特殊感覚・体性感覚・内臓感覚・感覚の一般的性質（ウェバーの法則） ・感覚の投射・感覚器の構造と機能・視覚（網膜）・聴覚（蝸牛）・嗅覚（嗅細胞）・味覚（味蕾） ・平衡感覚・皮膚感覚				
第15回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	運動学 I
代表講師	白ヶ澤 優 希 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
授業概要	体幹 (脊柱) と股関節の基本構造 (骨・関節・靭帯・筋) について、その仕組みを講義する。				
到達目標	脊柱の構造を説明できる。 股関節の構造を説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (80%)、講義中に実施する小テスト (20%)				
テキスト・教材等	『基礎運動学』、『解剖学アトラス』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第1回	脊柱の定義、骨の名称、脊柱の弯曲、椎間板				
第2回	頸椎の特徴、靭帯、関節、筋、脊髄と神経根、運動				
第3回	胸椎の特徴、靭帯、関節、筋、脊髄と神経根、運動				
第4回	腰椎の特徴、靭帯、関節、筋、脊髄と神経根、運動				
第5回	骨盤に関する骨、関節、靭帯				
第6回	股関節の構造と動きの特徴				
第7回	股関節の運動 ①				
第8回	股関節の運動 ②				
第9回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	運動学 II
代表講師	石 内 寛 丈 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
授業概要	膝関節、足関節及び足部の基本構造 (骨・関節・靭帯・筋) について、その仕組みを講義する。				
到達目標	膝関節の構造を説明できる。 足関節・足部の構造を説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (80%)、講義中に実施する小テスト (20%)				
テキスト・教材等	『基礎運動学』、『解剖学アトラス』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第1回	膝関節を構成する骨、関節と靭帯				
第2回	膝関節を運動させる筋				
第3回	膝関節の運動① (半月板の役割と半月板の動き)				
第4回	膝関節の運動② (各靭帯が膝の動きに及ぼす影響)				
第5回	足の骨、関節と靭帯				
第6回	足関節を運動させる筋、足弓を保持する筋				
第7回	関節の運動 (背屈、底屈、内反、外反)				
第8回	足部の運動 (内がえし、外がえし)、足の変形とその名称				
第9回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	運動学Ⅲ
代表講師	本 田 智 裕 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：9回 (18時間)
授 業 概 要	肩甲帯、肩関節、肘関節、手関節、手の基本構造 (骨・関節・靭帯・筋) について、その仕組みを講義する。				
到 達 目 標	上肢の各関節の構造を説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (80%)、講義中に実施する小テスト (20%)				
テキスト・教材等	『基礎運動学』、『解剖学アトラス』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第1回	肩甲帯の骨、靭帯、関節				
第2回	肩甲帯の運動と筋				
第3回	肩甲上腕関節の構造				
第4回	肩甲上腕関節の運動				
第5回	肘関節と前腕骨、関節、靭帯、筋と運動				
第6回	手関節の骨と靭帯				
第7回	手関節の筋と運動				
第8回	手の動きと動作の名称				
第9回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	運動学Ⅳ
代表講師	笹 川 友 彦 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・実習	単位数	1	学期・回数	後期：9回 (18時間)
授 業 概 要	人の歩行を運動学的・運動力学的な視点で捉え、歩行分析できるよう演習を交えて講義する。				
到 達 目 標	歩行時の各関節角度・筋作用を説明できる。 歩行時の床反力・重心・床反力作用点を説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (80%)、講義中に実施する小テスト (20%)				
テキスト・教材等	『基礎運動学』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第1回	重心と姿勢				
第2回	身体重心計測				
第3回	重心と基底支持面および床反力				
第4回	歩行の基礎用語				
第5回	歩行率の計測および算出				
第6回	歩行時の関節角度と筋活動				
第7回	歩行時の床反力・重心・床反力作用点				
第8回	関節モーメント				
第9回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	臨床心理学
代表講師	森 川 泰 寛 (所属：ヒューマンケア熊本)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：8回 (16時間)
授業概要	メンタルヘルスケアの視点と方法、患者心理の理解について学ぶ。				
到達目標	メンタルヘルスケアの実践法と患者の一般的心理を理解できる。				
成績評価の方法と基準	課題レポート (100%)				
テキスト・教材等	『生き方支援の心理学』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	「健康」とは？：臨床心理学オリエンテーション				
第2回	「個性」とは？：気質・性格・人格の理解				
第3回	「病気」とは？：各種メンタルヘルス不全とストレス障害				
第4回	「ストレス」とは？：ストレスの心身に及ぼす影響				
第5回	「ストレス対処」とは？：ストレス・マネジメント学習の実際				
第6回	「コミュニケーション」とは？：医療の場におけるコミュニケーション技法				
第7回	「患者の心理」とは？：患者心理の一般的理解と対処法				
第8回	「障害の心理」とは？：障害者の心理 (対象喪失と悲哀の仕事)				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	科目名	社会福祉学
代表講師	城 戸 禎 子 (所属：宇城総合病院)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
授業概要	社会保障制度の体系を知り、その目的や機能を理解し、社会保険や社会福祉について学ぶ。 患者や利用者のための、医療、看護、福祉の連携について学ぶ。				
到達目標	わが国の社会保障制度を理解した専門職になる。 社会保険や社会福祉の概要を説明できる。 多職種連携において、専門職として役割を果たすことができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験				
テキスト・教材等	『系統看護学講座 専門基礎分野 社会保険・社会福祉』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	社会保障制度／○日本の社会保障制度の目標や機能 ○社会保障の内容				
第2回	現代社会の変化 社会福祉の沿革／○社会福祉6法 ○社会の変化				
第3回	社会保険制度 (医療保険) ／○医療保険の概要と給付や費用負担				
第4回	社会保険制度 (介護保険) ／○介護保険制度の概要と介護サービス				
第5回	社会保険制度 (年金保険、労働保険制度) ／○年金制度と雇用保険と労災保険の概要				
第6回	公的扶助／○公的扶助の意義や原理原則 ○生活保護の種類				
第7回	社会福祉の分野と制度／○障害者福祉、高齢者福祉、児童家庭福祉				
第8回	医療・看護・福祉の連携／○連携の重要性 ○援助場面での主要な理念				
第9回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	義肢装具領域における工学	科目名	図学・製図学
代表講師	藤田昌幸				
授業方法	講義・実習	単位数	1	学期・回数	前期：15回（30時間）
授業概要	JISに基づいた図面のルールを学習し、手描きの製図やCADを用いた電子製図の演習を通じてその理解を深める。				
到達目標	「ものづくり」における図面の位置付けや役割を理解し、実際に一義性のある図面を自分で製図できるようになることを目標とする。				
成績評価の方法と基準	試験（70%）、製図演習（30%）				
テキスト・教材等	『JISにもとづく機械製作図集』 補助資料や演習問題は必要に応じて配布				
回数	授 業 内 容				
第1回	「ものづくり」とは？ 図面の一義性とJIS				
第2回	線と文字、線種の意味と役割、尺度				
第3回	投影法（主に第三角法）の概要				
第4回	作図の一般的原則				
第5回	寸法と寸法補助記号				
第6回	手描き演習問題、断面図				
第7回	寸法交差とはめあい				
第8回	幾何交差、表面あらさ、機械要素の略図法など				
第9回	CAD演習1：CADとは？線や円を描いてみる				
第10回	CAD演習2：所望の形状の作図法や編集の仕方、寸法の入れ方				
第11回	CAD演習3：CADによる投影法の製図（模写）				
第12回	CAD演習4：CADによる投影法の製図（練習課題）				
第13回	CAD演習5：CADによる最終課題（配布、演習）				
第14回	CAD演習6：CADによる最終課題（最後に提出）全体のまとめ				
第15回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	義肢装具領域における工学	科目名	機構学
代表講師	藤田昌幸				
授業方法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15回（30時間）
授業概要	メカニズムの構造や運動に関する基本を学び、機械の仕組みやからくりについてその働き方を学ぶ。				
到達目標	さまざまな機構の知識を義肢装具の設計や製作に役立てられるようになると同時に、機械や人の動作を分析できる力をつけることを目標とする。				
成績評価の方法と基準	試験（100%）				
テキスト・教材等	『基礎から学ぶ機構学』、補助資料や演習問題は必要に応じて配布				
回数	授 業 内 容				
第1回	機構の基礎：機構とは				
第2回	機構の基礎：機素と対偶				
第3回	機構の基礎：機構の自由度				
第4回	ベクトルについて、運動解析に必要な物理的準備				
第5回	瞬間中心とは				
第6回	リンク機構：4節回転リンク機構の基本				
第7回	リンク機構：スライダ・クランク機構等、リンク機構の義肢装具への応用				
第8回	リンク機構：リンク機構の速度解析				
第9回	リンク機構：リンク機構の静力学解析				
第10回	摩擦伝動機構とは、摩擦車				
第11回	歯車機構：歯車の種類と各部の名称				
第12回	歯車機構：歯車の角速度比、減速比				
第13回	カムの特徴と種類、巻きかけ伝動機構				
第14回	全体のまとめ				
第15回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	義肢装具領域における工学	科目名	情報処理演習
代 表 講 師	緒 方 公 一 (所属：熊本大学大学院先端科学研究部)				
授 業 方 法	講義・実習	単位数	1	学期・回数	前期：15回(30時間)
授 業 概 要	義肢装具領域において必要な工学的知識、特にコンピュータの基礎について学ぶとともに、文書作成ソフト Word、表計算ソフト Excel、プレゼンテーションソフト PowerPoint などによる演習を行い、実践的な利用法を学ぶ。				
到 達 目 標	コンピュータの基本的取り扱いができる・Word を使って文書が作成できる・Excel を使って計算、関数の利用、グラフの描画などができる・PowerPoint を使ってプレゼンテーションができる・コンピュータにおける情報表現を理解している・アナログ信号をデジタル信号に変換する A/D 変換の概念と標本化定理を理解している・インターネットの使用方法やセキュリティ、マナーに配慮できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験(70%)と課題レポート(30%)で評価する。				
テキスト・教材等	『30時間でマスター Office2021 (Windows11 対応)』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	コンピュータの基本操作と文書作成ソフト Word の基本操作 1 (入力、編集、表など) について学ぶ。				
第2回	文書作成ソフト Word の基本操作 2 (図、数式の入力など) について学ぶ。				
第3回	表計算ソフト Excel の基本操作 1 (連動計算式、基本演算、三角関数など) について学ぶ。				
第4回	表計算ソフト Excel の基本操作 2 (並べ替え、絶対相対セル番地の指定と効果など) について学ぶ。				
第5回	表計算ソフト Excel の基本操作 3 (棒グラフや散布図など各種のグラフの作成) について学ぶ。				
第6回	表計算ソフト Excel の基本操作 4 (文字列や日付関数など) について学ぶ。				
第7回	表計算ソフト Excel の基本操作 5 (論理関数など) について学ぶ。				
第8回	プレゼンテーションソフト PowerPoint の基本操作について学ぶ。				
第9回	Word と Excel の連携 (貼り付け方法の種類と効果の違い) について学ぶ。				
第10回	コンピュータにおけるビット、バイト、n 進法、基数変換について学ぶ。				
第11回	コンピュータにおける数値情報の表し方 (整数、表現範囲) について学ぶ。				
第12回	コンピュータにおける文字、画像情報の表し方について学ぶ。				
第13回	A/D 変換 (アナログ-デジタル変換) の概念と標本化定理 (サンプリング定理) について学ぶ。				
第14回	インターネットの歴史と現在、マナー、セキュリティについて学ぶ。				
第15回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	義肢装具領域における工学	科目名	義肢装具材料学
代 表 講 師	峠 睦 (熊本大学名誉教授)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
授 業 概 要	義肢装具に使用する鉄鋼材料からプラスチックまでの広範囲にわたる材料の基本的な特性に関する正確な知識を習得する。				
到 達 目 標	得られた知識を生かし、自ら設計、製作する義肢装具に使用する材料が選定でき、義肢装具の研究開発ができる能力を養う。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (80%)、レポート (4～5回) (20%)				
テキスト・教材等	『絵ときでわかる機械材料 (第2版)』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	材料を学ぶことの意義と義肢装具の設計に必要な知識との関連を説明する。また、1年生としての心構え、プレゼン能力の向上法、日本語文章力の向上策についても説明する。				
第2回	力の定義、種類、表し方 (ベクトル) を説明し、力の単位 (MPa、kgf/mm ²) の換算のやり方やその他の圧力や馬力に関する単位について説明する。				
第3回	金属材料の機械的性質 (引張強さ、硬さ、じん性、試験方法) を説明する。また、応力、荷重-伸び線図、応力-ひずみ線図の理解を深める。				
第4回	引張試験方法、代表的な4種類の硬さ試験、曲げ試験法の詳細を説明する。材料力学の基礎知識として、曲げ応力の求め方を説明する。				
第5回	はりに作用する曲げ応力と断面係数の関係、疲労試験と S-N 曲線の意味、クリープ試験を説明する。また、熱応力の求め方も説明する。				
第6回	金属材料の線膨張率と熱伝導率の関係を説明し、熱応力の式を誘導する。授業時間内で計算できる演習問題 (レポートとして提出) を解く。				
第7回	原子の構造と強い化学結合としてのイオン、共有、金属結合を説明する。また、金属の結晶構造のうち、代表的な3種類の格子 (面心、体心、稠密六方) を説明する。				
第8回	グラフ用紙を用いて代表的な3種類 (面心、体心、稠密六方) 格子を描き、すべり面とすべり方向の理解を深める。				
第9回	純金属二元合金の状態図を説明し、全率固溶、共晶型の2種類の状態図の理解を深める。				
第10回	鋼の製造方法、鋼と鉄の違い、鉄-炭素の状態図、各炭素成分において得られる標準組織を説明する。また、鋼の代表的な熱処理法についても説明する。				
第11回	炭素鋼の種類、工具鋼、機械構造用合金鋼の中の強靱鋼、高張力鋼を説明する。また、工具用合金鋼の種類、超硬合金 (実物回覧) についても説明する。				
第12回	耐食鋼としてのステンレス鋼の種類、規格、分類、耐熱鋼や軸受鋼などの特殊合金鋼、非鉄材料のアルミニウム、銅の説明と合金の種類、特性について、それぞれ説明する。				
第13回	その他の金属材料 (Zn、Sn、Pb、Ti、Mg) の説明とダンベル形状の5種類の材料を回覧し、Mg や Al の軽さを実感する。プラスチックの種類 (熱硬化性、熱可塑性) と用途を説明する。				
第14回	エンブラ、スーパーエンブラの説明、複合材料の種類、製造法、異方性の説明、代表的な繊維強化複合材料である CFRP の説明を行う。国家試験における材料の問題を例示する。				
第15回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	義肢装具領域における工学	科目名	義肢装具材料力学
代 表 講 師	藤 田 昌 幸				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15回（30時間）
授 業 概 要	力学の基本の解説からスタートし、義肢装具でも必ず作用する材料への荷重と応力や変形について学習する。				
到 達 目 標	部材を材料強度の観点から考察できるようになり、実際に部材の強度設計を行えるようになることを目標とする。				
成績評価の方法と基準	試験（100%）				
テキスト・教材等	『絵とき材料力学基礎のきそ』、補助資料や演習問題は必要に応じて配布				
回 数	授 業 内 容				
第1回	力学について：力学とは、力学の3法則				
第2回	力学について：力のつりあい				
第3回	力学について：さまざまな荷重				
第4回	荷重と応力（引張、圧縮、せん断）				
第5回	ひずみとは				
第6回	引張試験、応力とひずみの関係				
第7回	許容応力と安全率、熱応力など				
第8回	モーメントとは、モーメントのつりあい				
第9回	はりの種類とその支持方法、単純支持ばりの支点反力				
第10回	せん断力図と曲げモーメント図				
第11回	曲げ応力の考え方、断面二次モーメントと断面係数				
第12回	単純支持張りの応力算定の演習				
第13回	はりのたわみと曲げ剛性				
第14回	ねじりについて 全体のまとめ				
第15回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	基礎義肢装具学	科目名	義肢装具学概論
代 表 講 師	本 田 智 裕 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	義肢装具士として臨床を経験してきた教員が、これまでの経験を活かし、義肢装具に関わる基礎的な内容について講義する。				
授 業 概 要	義肢装具学の構成、概論としての基礎知識、義肢装具士の社会的役割等を講義する。				
到 達 目 標	義肢装具に関わる法律等について説明できる。 義肢および装具について、その定義・分類・名称等を説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (80%)、講義中に実施する小テスト (20%)				
テキスト・教材等	『J I S 福祉関連機器用語 [義肢・装具部門]』、配布資料など				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	義肢装具学の構成、身体面、心理面、社会的、工学的側面と義肢装具学				
第 2 回	諸外国および我国における義肢装具の変遷、義肢装具士法成立とその背景				
第 3 回	障害の全体像の理解と義肢装具を必要とする人々				
第 4 回	症例から学ぶ義肢装具士の役割				
第 5 回	法でみる義肢装具士の業務				
第 6 回	義足の定義と分類				
第 7 回	義手の定義と分類				
第 8 回	ISO、使用目的による定義・分類など				
第 9 回	構造、法律上の定義・分類など				
第10回	4班に分かれて上肢、下肢、体幹装具を体験、次週にレポート提出				
第11回	”				
第12回	”				
第13回	義肢装具以外の補装具および福祉用具について				
第14回	義肢装具学概論の総括				
第15回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	基礎義肢装具学	科目名	義肢装具基本工作論 I
代表講師	石 内 寛 丈 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	3	学期・回数	前期：60回 (120時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	義肢装具士として臨床を経験してきた教員が、これまでの経験を活かし、義肢装具製作に必要な知識と技術を実践的に指導する。				
授 業 概 要	義肢装具の製作実習を通して、各種工具・工作機械の取り扱い方法、各種材料の特性、加工方法を習得する。				
到 達 目 標	各種工具・工作機械を用いて各種材料に応じた適切な加工を行うことができる。 下腿義足・短下肢装具を製作できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (55%)、製作課題 (35%)、レポート (10%)				
テキスト・教材等	『義肢学』、『装具学』、『義肢製作マニュアル』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回 ～第4回	オリエンテーション、自己紹介、班分け、作業内容確認 T / T (下腿義足)・AFO (短下肢装具)				石内寛丈 山形なおみ 白ヶ澤優希
第5回 ～第8回	T / T : ソフトインサート製作・樹脂注型準備・注型				
第9回 ～第12回	T / T : ソケットトリミング・埋め込み・アングルブロック製作				
第13回 ～第16回	T / T : ベンチアライメント・型出し				
第17回 ～第20回	T / T : 型出し				
第21回 ～第24回	T / T : 外装準備・外装				
第25回 ～第28回	T / T : 石膏割り出し・仕上げ				
第29回 ～第32回	AFO : 一本支柱曲げ・作図・あぶみ曲げ				
第33回 ～第36回	AFO : 角度設定・支柱曲げ・半月曲げ・組み立て				
第37回 ～第40回	AFO : 組み立て・仕上げ				
第41回 ～第44回	AFO : 裁断刀研ぎ・採型練習・採型				
第45回 ～第48回	AFO : 陽性モデル修正デモ・修正				
第49回 ～第52回	AFO : プラスチック成型・トリミング				
第53回 ～第56回	AFO : 最終調整				
第57回 ～第59回	評 価				
第60回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	基礎義肢装具学	科目名	義肢装具基本工作論Ⅱ
代表講師	石 内 寛 丈 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	3	学期・回数	後期：60回(120時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	義肢装具士として臨床を経験してきた教員が、これまでの経験を活かし、義肢装具製作に必要な知識と技術を実践的に指導する。				
授 業 概 要	義肢装具の製作実習を通して、各種工具・工作機械の取り扱い方法、各種材料の特性、加工方法を習得する。				
到 達 目 標	各種工具・工作機械を用いて各種材料に応じた適切な加工を行うことができる。 下腿義足・短下肢装具を製作できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験(60%)、製作課題(30%)、レポート(10%)				
テキスト・教材等	『義肢学』、『装具学』、『義肢製作マニュアル』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回 ～第4回	オリエンテーション、自己紹介、班分け、作業内容確認 T / T (下腿義足)・AFO (短下肢装具)				石内寛丈 山形なおみ 白ヶ澤優希
第5回 ～第8回	T / T : ソフトインサート製作				
第9回 ～第12回	T / T : ソフトインサート製作				
第13回 ～第16回	T / T : 金具曲げ				
第17回 ～第20回	T / T : 樹脂注型・トリミング				
第21回 ～第24回	T / T : ベンチアライメント				
第25回 ～第28回	T / T : 仕上げ				
第29回 ～第32回	T / T : 評価 AFO : 採型				
第33回 ～第36回	AFO : 陽性モデル修正				
第37回 ～第40回	AFO : 陽性モデル修正				
第41回 ～第44回	AFO : プラスチック成形				
第45回 ～第48回	AFO : プラスチック成形				
第49回 ～第52回	AFO : プラスチックトリミング				
第53回 ～第56回	AFO : バンド縫製、仕上げ				
第57回 ～第59回	評 価				
第60回	試 験				

学 科	義肢装具学科 1年次	教育 内容	基礎義肢装具学	科目名	体幹装具学 I
代 表 講 師	山 形 なおみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・実習	単位数	3	学期・回数	後期：60回 (120時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	義肢装具士として臨床を経験してきた教員が、これまでの経験を活かし、体幹装具の採寸・採型・製作・適合に必要な知識と技術を実践的に指導する。				
授 業 概 要	腰仙椎装具の製作を通して採寸採型・製作・適合の知識・技術を習得する。 課題発表を通して主体的学習を促し、体幹の機能解剖や疾患についての知識を習得する。				
到 達 目 標	各種疾患と適応となる体幹装具を説明できる。 腰仙椎装具を製作し、適合確認・修正から適切な評価ができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (60%)、製作実習の作業及び適合評価 (30%)、課題発表 (10%)				
テキスト・教材等	『装具学』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回 ～第5回	ナイト：講義・採型				山形なおみ 白ヶ澤優希
第6回 ～第10回	ナイト：作図・骨盤帯製作				
第11回 ～第15回	ナイト：胸椎バンド・後方支柱・側方支柱製作				
第16回 ～第20回	ナイト：腹部パット製作・ストラップ製作・仮合わせ				
第21回 ～第25回	ナイト：修正				
第26回 ～第30回	ナイト：仕上げ				
第31回 ～第35回	ナイト：評価				
第36回 ～第40回	モールド：採型				
第41回 ～第44回	モールド：石膏流し・修正				
第45回 ～第48回	モールド：プラスチック曲げ・トリミング・仮合わせ				
第49回 ～第52回	モールド：調整・仕上げ				
第53回 ～第57回	モールド：仙腸装具製作				
第58回 ～第59回	モールド：仕上げ・評価				
第60回	試 験				